

大阪ろうさい クロニクル

第10号

発行日
2024.10.1

大阪ろうさい病院 がんセンターとは

副院長／泌尿器科部長 つじ はた まさ お
辻 畑 正 雄



大阪ろうさい病院は、厚生労働省が認定する国指定の“地域がん診療連携拠点病院”として、がん診療部門を病院の一つの柱に力を注いでまいりました。特に南大阪地域の皆様にとって、安心してがん診療を受けていただける、“信頼できる、なくてはならない病院”になっております。

がんセンターは、がん診療を行う各診療科の医療チーム、各種ワーキンググループや各種プロジェクトチームを横断的・集約的に総括するところで、6つの部門から構成されています。6つの部門というのは、市民啓発・教育・研修プロジェクトチームや地域連携・がん登録ワーキング、禁煙推進プロジェクト、AYA世代支援チームを総括している「がん対策企画部門」、「緩和ケアセンター部門」、レジメン検討ワーキングやSAE(重篤な有害事象)対策チームを含む「化学療法センター部門」、「放射線治療センター部門」、「がんゲノム医療センター部門」、がんサポートや就労支援を管轄する「がん相談支援センター部門」からなります。この各部門でがん対策の懸案事項についてディスカッションを定期的に行い、それらを取りまとめるためのがんセンターのコアメンバーによる全体会議を月に1度行って承認を得ることにより、院内のがん診療担当部門の連携・協力体制を確固たるものにしております。

がんセンターでは、市民啓発・教育・研修にも力を入れております。市民啓発では、ろうさい市民がんフォーラムを1年に1度開催しております。これは、当院のがん専門医による市民の方々向けの講演会であり、毎年400名近くの皆様にご参加していただいております。今年も10月6日(日)に開催予定で、今回が8回目の開催になります。また、堺市の各地区で胃がん、大腸がん、婦人科がん、泌尿器がんを中心に市民向けの講演会を定期的で開催しております。さらに、がん教育の分野においても、堺市内の中学校や高等学校から依頼をいただき、当院から講師を派遣して学生向けの講演会を行っております。最近では小学生を対象とした“ちびっこ手術室見学会”と題して、当院の手術室を見学してもらい、手洗いの実演や手術支援ロボット“ダビンチ”を触ってもらう体験会も催しており、好評をいただいております。

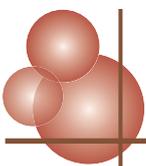
これからも大阪ろうさい病院 がんセンターでは、高度な医療の提供から多方面でのサポート、そして研修や教育に至るまで、地域の皆様のがん診療を全力で担ってまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

基本理念

誠実で質の高い医療を行い、
すべての方々から選ばれる病院に

基本方針

1. 地域と連携し地域に信頼される急性期医療を行います
2. 高度で安全な医療に全力をあげてとりくみます
3. 患者さまの立場と権利を尊重する医療に努めます
4. 勤労者医療を担ってこれを推進します
5. 働きがいのある職場づくりを推進します



診療科紹介 化学療法センター

化学療法センター長/外科・消化器外科部長

あか まる ゆう すけ
赤 丸 祐 介



化学療法(がん薬物療法)とは、抗がん剤を使用して、手術では切除できないがん細胞に対して増殖を抑えて腫瘍を縮小させたり、がん細胞を切除後に再発や転移を予防する治療方法のことです。

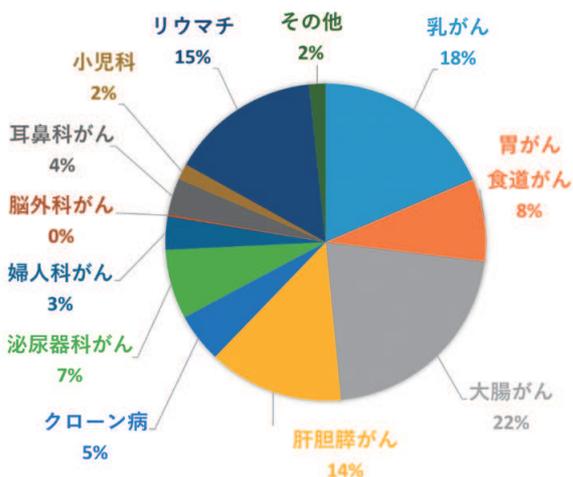
最近のがん治療においては、治療効果はもちろんですが、同時に患者さまのQOL(生活の質)を非常に重視しています。現在でも副作用の強い、強力な化学療法は入院で施行しますが、外来通院で、仕事や家事などの普段通りの生活をして、QOLを維持しながら化学療法を継続する方法が主流となっています。当院でこの外来での化学療法を受けて頂く場所が「化学療法センター」です。

近年、従来の殺細胞性抗がん剤に加え、分子標的薬、ホルモン療法、免疫チェックポイント阻害薬など新しい薬剤の開発が目覚ましく、がんの治療成績は飛躍的に向上してきています。

一方で、治療内容は複雑化し、専門性が一段と要求される状況になってきています。当院の化学療法センターでは、毎日5~7人の看護師が勤務し、実際の治療に当たっています。さらに、がん薬物療法専門医1名、がん専門薬剤師2名、外来がん治療専門薬剤師3名、がん薬物療法看護認定看護師2名などが在籍しており、多職種の専門家が協力して、患者さま一人ひとりに最適で最新の治療を、安全に受けて頂けるように治療に当たっています。

当院の化学療法センターでは、がん薬物療法以外に、慢性リウマチやクローン病に対する化学療法も施行しています。これらを合わせると、1年間で延べ8,000人を超える患者さまが治療を受けています。ベッドとリクライニングチェアで合計31床を準備しており、プライバシーが確保された空間で、リラックスして治療を受けて頂けるように配慮しています。今後も患者さまの治療を全力で支えていきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

2023年度疾患別治療割合 患者総数 8147名



治療の様子



薬剤調合の様子

診療科紹介 放射線治療センター

放射線治療センター長/放射線治療科部長 **こ つま ただ ゆき**
古 妻 理 之



放射線治療は、外科手術や薬物療法と並ぶがん治療の重要な方法の一つです。根治を目指す治療だけでなく、痛みを和らげる治療や再発のリスクを減らすための治療など、多様な目的に対応することができます。

当院では、病院移転に伴い、新たにリニアック(放射線治療装置)を導入しました。この装置は、Varian社の「Truebeam」で、2022年3月から運用を開始しています。このリニアックを用いて、高精度な放射線治療を行っています。

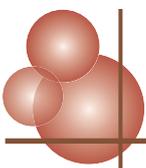
特に、IMRT(強度変調放射線治療)は腫瘍の形に合わせて放射線を照射する技術です。これにより、放射線に敏感な臓器への影響を抑えつつ、腫瘍に十分な線量を届けることができます。また、VMAT技術を利用することで、IMRTをより短時間で行うことが可能です。

小さな腫瘍に対する定位放射線治療も、最新の技術を取り入れています。例えば、肺の腫瘍に対する体幹部定位放射線治療では、腫瘍の動きを追跡しながら放射線を照射する「呼吸同期照射」を行っています。さらに、2023年6月からは、脳腫瘍などの頭蓋内病変に対して「Hyperarc(ハイパーアーク)」という新しい照射法を導入しました。これにより、従来の方法では一度に一箇所しか治療できなかった病変を、一度に複数箇所治療することができ、患者さまの負担が軽減されました。

これらの高度な放射線治療を支えているのは、専門知識を持つスタッフたちです。当センターには、放射線治療医、放射線治療専門放射線技師、医学物理士、がん放射線療法看護認定看護師が揃い、全員が協力してチームとして診療に当たっています。地域の患者さまに最善の治療を提供できるよう、今後も努力してまいります。引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



リニアック(放射線治療装置)



診療科紹介 がんゲノムセンター

がんゲノム医療センター長 / 乳腺外科部長

がんゲノム医療副センター長 / 腫瘍内科部長

診療情報管理士

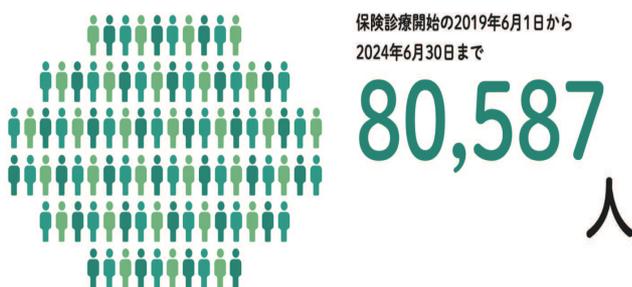
きつ 橘 高の野 信達 由紀子
おおく 奥 高の野 信達 由紀子
まつ 松 もと本 ゆきこ



日々進歩を遂げる今日のがん医療において、「がんゲノム医療」は新しいアプローチの一つとして注目を浴びています。「がんゲノム医療」とは、がん患者さま一人ひとりの「がんの遺伝子」の情報を診断や治療に活かすことで、より患者さまに合わせた個別化医療を提供するために行われる医療です。本邦では、2019年6月よりがん遺伝子パネル検査が保険適用され、保険診療のもとでがんゲノム医療が受けられるようになりました。このがん遺伝子パネル検査は、がん組織などにおける数百の遺伝子を同時に調べることが可能であり、現在では複数のパネル検査が開発され使用できるようになっています。がん遺伝子パネル検査によって、何らかのがんの遺伝子に変化が見つかった場合には、その遺伝子の変化に対して効果が期待できる薬剤や臨床試験の有無をデータベースなどで調べ、エキスパートパネルでの検討を介して最適と考える治療を患者さまに提案します。現在、がん遺伝子パネル検査を受けられる施設は、がんゲノム医療中核拠点病院、拠点病院、連携病院として指定されている全国266施設であり、保険診療開始時から2024年6月末時点でのパネル検査数の全国累計は80,587件に上っています(図1)。

当院は大阪大学医学部附属病院を中核拠点とするがんゲノム医療連携病院に指定されており、院内にがんゲノム医療分科会を設置し、遺伝子パネル検査実施体制の整備や出検マニュアルの作成、がんゲノム医療に関する啓発セミナーなどの実施を行っています。このがんゲノム医療分科会は主に固形がんを対象とする複数の診療科を中心として、病理診断科、乳がん看護認定看護師などから構成されており、様々な角度からがんゲノム医療に対応できるチーム医療体制を整えています。現在、当院におけるがん遺伝子パネル検査の実績(図2)は2023年末までに110件に及んでおり、今後も徐々に増加傾向を辿るものと予測しております。さらに、パネル検査で見つかる二次的所見(遺伝性腫瘍に関連する遺伝子異常が見つかることがある)にも対応できるように、認定遺伝カウンセラーの方から専門的な遺伝カウンセリングを受けていただけるシステムも構築しております。今後、がんゲノム医療の更なる発展が期待されるなか、解決すべき課題としては、遺伝子パネル検査から得られた遺伝子変化に対応した治療薬への到達率がまだまだ低いこと、出検数増加に伴うエキスパートパネルへの負荷、さらにはC-CATへの臨床情報の入力業務増加などが挙げられておりますが、新たなゲノム医療という分野に期待をお持ちの患者さまへは積極的に適切な医療を提供して行きたいと考えております。

(図1) C-CAT登録数累計



保険診療開始の2019年6月1日から
2024年6月30日まで

80,587

人

がんゲノム情報管理センター-C-CATホームページ_C-CAT登録状況より

(図2) 当院におけるがん遺伝子パネル検査CGPの年次データ(2019~2023年)

検査種	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	総計
FoundationOne CDx	4	23	27	26	22	102
F1Liquid CDx			2	3	3	8
NCC OncoPanel	0	0	0	0	0	0
Guardant360 CDx						0
総計	4	23	29	29	25	110

診療科紹介 緩和ケアセンター

緩和ケアセンター/緩和ケア科部長 **にん 幹 夫** みき お



大阪ろうさい病院緩和ケアセンターは、がん患者さまとご家族が直面するつらさを軽減し、質の高い生活を送ることを目的とした専門的な医療サービスを提供しています。

【緩和ケアチーム】

医師、看護師、薬剤師、心理士、ソーシャルワーカー、理学療法士、管理栄養士など、多職種が連携して入院中の患者さまをサポートします。対象は主にがん患者さまとなりますが、入院中に限り、非がん患者さまの症状コントロールも行っています。

【緩和ケア外来】

毎日午前・午後に開設しています。緩和ケアの患者さまは、症状の変化が起こりやすく、予約外、時間外の受診が必要となることも多く、必要な時に受診、入院できる体制が必要と考えています。地域のクリニックや病院からの紹介患者の受け入れも行っていますが、初診の場合、必ず紹介状が必要となります。時間外での、初診患者の対応は行っておりません。

【緩和ケア病床】

緩和ケア病床は、専門的な病棟ではなく混合病棟となりますので、面会等療養環境に制限はありますが、急性期総合病院であることをいかして、必要であれば、緩和的放射線治療、ステント留置（消化管、胆道、尿路等）、輸血や神経ブロックなど症状緩和のための処置も行える環境にあります。

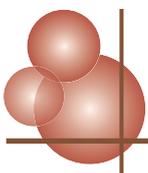
【がんカウンセリング外来】

がん告知時や再発の告知時にがん関連の認定看護師が説明に同席し、説明内容が理解できているか確認し、心理的サポートも行いながら意思決定支援につなげています。

【緩和ケア教育・広報】

年6回の医療者を対象とした緩和ケアに関する教育や、堺市医療圏において主要病院が協働して、事例検討会や緩和ケア普及のためのイベントを行っています。がん診療に携わる医師が、基本的緩和ケアを提供できるように厚生労働省より指定されている緩和ケア研修会も年に1度開催しています。





診療科紹介 内視鏡センター

内視鏡センター長/消化管内科部長 やま だ たく や
山 田 拓 哉



当院の内視鏡センターでは、消化器疾患の診断と治療において最先端の医療技術と高度な専門知識を駆使し、患者さまに質の高い医療サービスを提供しております。

当センターは病院1階に位置しており、7室の内視鏡検査室を備えています(写真1)。そのうち1室は内視鏡治療専用の検査室です。また別にX線透視倒置付きの内視鏡検査室も併設しております。

年間1万件を超える内視鏡検査を行っており、上部・下部内視鏡検査、超音波内視鏡検査、胆膵内視鏡検査、小腸内視鏡検査、カプセル内視鏡検査などを行っております。検査には最新の高画質(ハイビジョン)内視鏡や拡大内視鏡、特殊光(NBI)検査などの機器を備えており、精度の高い検査を行っております。また、AI(人工知能)を用いた上部消化管内視鏡検査・大腸内視鏡検査を行うことが可能です。

大腸ポリープに対する内視鏡的粘膜切除術(EMR)を年間約1,500件、食道・胃・大腸の早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を約200件、胆道・膵臓疾患に対する内視鏡治療を約700件行っています。

検査室は十分な広さが確保された個室であり、検査台ごとに検査医、看護師が配置され、リラックスできる環境で検査を受けていただけるよう配慮しています。苦痛の少ない検査を受けていただくために、鎮痛・鎮静剤を用いた検査も行っており、センター内には広いリカバリースペースを備えております(写真2)。また安全な検査を受けていただけるように、感染対策にも力を入れています。内視鏡はガイドラインに準拠した用手洗浄を行った上、毎回の検査ごとに専用洗浄機を使用して高レベル洗浄を行っております。

当センターは、地域医療の発展に寄与するため、常に最新の医療技術を追求し、患者さまに寄り添った医療を提供することを目指しています。今後とも、先生方のご指導とご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



(写真1) 内視鏡センターの内観



(写真2) リカバリースペース

部門紹介 がん相談支援センター

がんセンター看護師長 おく だ こ
奥 田 ゆり子



がん相談支援センターは、がんに関するさまざまな悩みや疑問に対して、専門的な知識を持ったスタッフがサポートを提供する相談窓口です。がんは、患者さまやそのご家族に大きな影響を与える病気であり、診断や治療に関する情報提供や心理的サポート、生活面でのアドバイスなど、多岐にわたる支援が求められます。

当センターでは、がんに関する専門的な知識を持つ看護師や社会福祉士が常駐し、患者さまやそのご家族が抱える不安や疑問に対して、個別に相談を受け付けています。がんの診断や治療に関する相談はもちろん、治療に伴う副作用や生活習慣の改善、経済的な問題、就労に関することなど多岐にわたります。相談は無料で、匿名でも可能です。初めての方でも安心して訪れることができるよう、温かい環境を整えており、また、プライバシーも守られています。

全国に設置されている「がん相談支援センター」の中でも、国立がん研究センターが指定する数少ない「認定がん相談支援センター」です。相談の質を維持するために、提供する情報の評価や、相談対応の改善を定期的実施し、外部のレビューも取り入れています。

さらに、大阪ろうさい病院では、がん患者の治療と仕事の両立支援にも力を入れています。治療と就労を両立するために、会社と相談員が連携し、就労環境の改善や休職・復職支援に関する意見書の発行等を行っています。がんを罹患しながらも働き続ける方々を支えるため、具体的な対策や支援を提案し、再就職を希望する方には月1回のハローワーク面談にも取り組んでいます。

がん相談支援センターは患者さまやそのご家族だけでなく、医療従事者の相談も可能です。お気軽にご相談ください。



相談の一場面

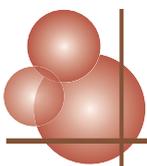
大阪ろうさい病院がん相談支援センター

電話（直通）072-255-7530

平日 8:15~17:00

メール：gansoudan@osakah.johas.go.jp

お問い合わせ窓口



部門紹介 がんサロンのご案内

がん相談支援センター認定がん相談員
(緩和ケア認定看護師)

まさよ
ウォン 政代



がんサロンは、がん患者さまやそのご家族が安心して集える場所であり、同じ境遇にある方々と交流し、情報を共有するためのコミュニティスペースです。がんの診断や治療は、患者さまやそのご家族にとって大きな精神的・肉体的負担を伴います。そのような状況において、がんサロンは心の拠り所となり、孤立感や不安を軽減するための大切な役割を果たします。

当院のがんサロンは毎月行われており、「陽だまり」は奇数月の第4火曜日に女性限定で集っています。「いたわり」は労災病院の「労」の字から互いにいたわりあえる会にしたいと発足した患者会です。男性も参加可能で偶数月の第4金曜日に開催しています。がんサロンでは、患者さまやご家族が自由に参加できる様々なプログラムが提供されています。例えば、ヨガや落語、がん治療に関する最新情報の提供、クリスマスリース作りなどのイベントの後にお話し会を開催しています。経験を共有することで、お互いに支え合うことができます。参加者同士がリラックスした雰囲気でも語り合うことで、治療や生活の中での悩みや心配事を話す機会が得られます。毎月5～10名程度の参加があります。

がんサロンは、がん患者さまやそのご家族が、前向きに病気と向き合い、より豊かな生活を送るためのサポートを行う場所です。ご興味のある方は、がん相談窓口までご連絡ください。



がんサロンで落語会

独立行政法人
労働者健康安全機構 **大阪ろうさい病院**
日本医療機能評価機構認定病院
地域がん診療連携拠点病院
地域医療支援病院

〒591-8025
大阪府堺市北区長曾根町1179-3
TEL 072-252-3561(代表)
072-255-8076(メディカルサポートセンター)
FAX 072-255-8203(メディカルサポートセンター)
<https://www.osakah.johas.go.jp/>



(病院HP)